

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第 3 四半期連結累計期間において、投資活動により資金は 1,692 億円減少しました。これは、主に海外資源関連子会社などにおいて設備投資に伴う支出があったことにより、資金が減少したものです。

以上の結果、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの合計であるフリー・キャッシュフローは 4,454 億円の資金増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第 3 四半期連結累計期間において、財務活動により資金は 7,055 億円減少しました。これは、親会社において配当金の支払いがあったことに加え、運転資金負担の減少に伴い借入金の返済を進めたことにより、資金が減少したものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当年度の連結業績予想につきましては、平成 21 年 10 月 30 日公表の連結業績予想から変更はありません。

(注意事項)

本資料における業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

連結子会社であった MC GLOBAL VOYAGER FUND LIMITED は連結範囲における重要性が低下した為、非連結子会社としております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

法人税等は、当四半期の属する連結会計年度における、税効果を考慮した見積もり税率に基づき算出しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

ASC パラグラフ 810-10-65-1「連結-総論-移行」を、当四半期の属する連結会計年度より適用しております。これにより、従来、連結貸借対照表の負債の部と資本の部の中間に分類していた少数株主持分を、非支配持分として資本の部に含めて計上しております。また、ASC パラグラフ 810-10-65-1「連結-総論-移行」の適用により、連結損益計算書の表示科目を変更しております。

ASC パラグラフ 810-10-65-1「連結-総論-移行」の表示に関する規定は遡及的に適用され、連結キャッシュ・フロー計算書を含む過年度の連結財務諸表を組替再表示しております。

米国会計基準は、従来、会計研究広報 (Accounting Research Bulletins)、会計原則審議会意見書 (Opinions of the Accounting Principles Board)、米国財務会計基準審議会基準書 (Statements of Financial Accounting Standards Board、以下「基準書」) などからなっておりましたが、基準書第 168 号「Codification 及び一般に公正妥当と認められた会計原則のヒエラルキー」が公表されたことにより、平成 21 年 7 月に Accounting Standards Codification のもとに統合されました。

なお、ASC パラグラフ 810-10-65-1「連結-総論-移行」は、従来の基準書第 160 号「連結財務諸表における非支配持分-ARB 第 51 号の改訂」に該当します。また、ASC サブトピック 605-45「収益認識-主たる代理人の報酬」は、従来の EITF 第 99 号-19 号「契約当事者における収益の総額表示と代理人における収益の純額表示」を含んでいます。